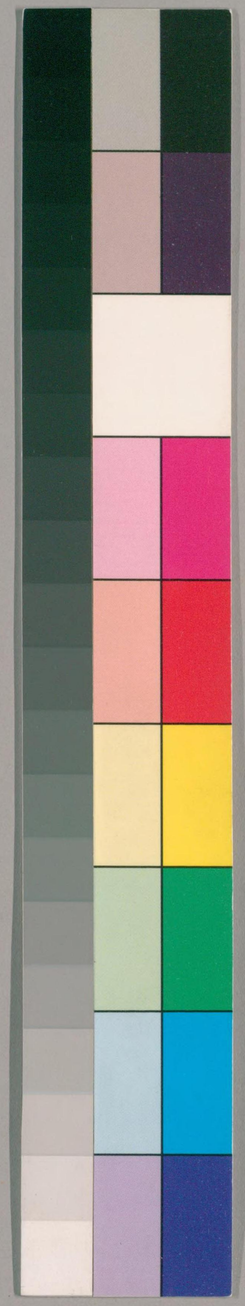
三世の光

四

182.85
Ko518m



国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m

ガラス使用

太子尼連禅河（ねれんぜんが）をわたらんとするに流（ながれ）をとゞめて渡（わた）し
まらば阿羅邏仙人（あららせんにん）乃至（ないし）おりはさもとすれば天まづの死仙ふ
薩婆悉達太子國（さらばしつたたいしこく）をすて父母（ふぼ）よりはじめ
一切庶生（しよしやう）苦みをぬのおとおぼ
ゐしつゝまた今よおい
おりまいをとるふんをまち出（いで）てもう
ことをすゝむ処（ところ）よい事なれば
ほうち世ますべれば世のひ（さうぐう）相好（そうごう）そなへ
しまいをえまいたらめで殺（ころ）ひ
多無上正等（むじやうしやうとう）の道（どう）をもとめ
てこにおり
ひほどなく
よくぞおもへ
に諸（しよ）天
仙人大子死法の
根（こん）志（こゝろざし）におは
ひまの幸（さち）
道（みち）をそちよおい

国立国会図書館
25.3.31
図書館
112256

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

まに疲れ世のそしりなどいあたる事〳〵せつ〳〵君うまれさせ給ふより
出家せよと父の法師又ごとにおり〳〵まに仰つけ給ふまゝ火炎の中にたゝる人の自ら出れたがごとく大きなる
うきをうれるが家とはぬる事なし乳ぶ〳〵いみ〳〵乃帝位に即給ふ事
みおり国に時八おぼすまゝに五欲乃さかえみをきはめのびちよ八
ひく〳〵まきて国をもすて精の楽みをもすて出家し道をまなび
そのふは奇とすべき事みも侍らず君死給ふ年あらうおはし
ますてはをも五欲をも捨てはをの〳〵におたち〳〵はにて
実に世ふさとよめおぢらるゝ法ことにおり〳〵ませ勤ておこ
らる速やかに彼きし到をのへといを納んが為よ勧めまゐらせ

らるれば太子もいを収めせのびがたためにまた生老病死を断ずきの
法なときこのへ事ふをきりんまをおこさせたまふ
仙人ら仰くと答て此いまとも一生乃ふ起まをまの真初よの我慢をおこ
う癡心よの深愛を生し深愛ふ生し五欲塵乃氣ぜ生し五欲塵乃氣ぜ生し
五欲塵乃氣ぜ生し五大よの貪欲瞋恚などの
もろ〳〵乃煩悩を生じこれふよりて生老病死憂悲苦悩
つゝ乃ちまふきみだよの眼りてそれおもむきをとき
侍るなりと太子仙の説のふ生死乃根本はわれとくこゝ
を去らず何れまだてをもてこのなげく此苦を断む仙答て

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

も一世乃至十生乃至百千生乃至無量生に於て戒を
護持し亦た多くの辱を忍び人里を遠ざかり
おはして禅定を修習し欲悪不善法をも亦多く
しりまた覚知の観ある初禅を得それよりそれ覚
観とを除きて定生じて内心浄く
をすて正念にて得楽根を具して第三禅を得次は第四禅
第を捨ぞき捨根ありまて第四禅を得無垢報を得ては
法師も一切を解脱なるといふ如きはこの定より生ぜて
後これ解脱を知ることをもつてそれの如く思
をもなして空処ないて有辺の想を滅して識処ないて

無量生起を滅してただ一識を観じて無所有処ないて猶
のおよぶなりまて非想非々想処ないては
処なりともろくの学者乃彼岸なり生老病死
を断んとおぼはばかりそれ行をまるびなり
これをきりせのひは心なりそこびみそびん
ふたゝ一仙れ知見すら処はこれ究竟の処なりまで永くもろく
の煩悩をたつまたこれ説示ばく法ま
いまだ解しがき処なりこれ我とそん空をおもふなりと
仙の心それまに合せのごとしとあまばそれ非想非々想処は
は有あらとせんや多くの我なりといそで非

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

悲非々想といふ處にそれ我ものとい
ふ事もせんや況や我もし知なくれば未
我を知れゞ攀縁あつて攀縁あつて
なまじ解脱あらば仙は塵結をいて自ら
ほあることを去ることぬゆゑふこれを
ふとおもひふ細結去ぎれば長ずればふたゝび又下結をそう
えざる下結をそうこれぞ下界に生
まじきにてこれを知なゝも家友家おを
捨すれども我実の解脱となづく
法なりと常法処なく説せなくば仙こと

とかせふ仙人を羊いつだろうにして出家し梵行を修しふことを
いうだろうに孔子月ぞや仙わま十六ありて出家し梵行を修し
ありること一百四年なりと太子深心のうちにおぼ出家れ後いと
久くきにう法処れ法なりばうれこと
はして利益なし更ま縛法をとめんとおぼし仙人
とわまはせふ此時仙回われ久苦よりこの此苦りを修
しう法処れ果このごろうの事なり太子は王種いつで此苦りま
ばのそんやとこれが太子仙れ此りを苦とおもふふあらじ別ま
最苦難りれ道はなりと孔たまふ仙人を太子乃智恵元
堅固おはしまちぬを見奉り決定し

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

て一切種智を成じ一道を成しなはち我くのごとくまの我を度しのごとく太子らもまたかくのごとく迦葉仙人のもとにおいてまた論議問答またおおじ又ちょうど二仙は太子乃智恵まことに深妙奇特みてはあめぐりといえ共に合掌して太子を迎え送りまた太子八仙の羅遍迦葉仙二仙を調伏しのひそまもの伽尼仙苦行の林中よりすでをのふことは憍陳如などの五人やすめ処をえけめ尼連禅江のほとりさはらふ猪奴ら添地の金樹林うるわしく出きたりてしばらく涼しげふにみなそもて坐とあみもたるの金蓮花の未

どもをあつめ地中は多青くともてみどりなねたるやうに見ゆ太子これを出境しそこばすむべき処なめそこにあやそともらくの寂定を念すべしとなしそまもる処おおい南てはまず苦切を修しのみ此をまき諸天麻と米とをもち太子正覚の道をもとめんとおぼすのゆえに浄心不戒ほらせのごとく一麻一米を食しまたは二日ふ一麻一米を食しまたは七日ふ一麻一米を食しのふりこふも我ひとりて又これをもて施しのふを見ておのく自ら又我端坐思惟し一麻一米を食しのふを見ておのく自ら苦切を修しのふはらをもなをまもらば此時ふなをまもて五人の

112256

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

中そとめう屋ゐて王師大臣みのれたせのみて
さ法どを又今社若切れ志ままを告きさ由此王師大臣はさ紀
ふ却ふ屋ゐなごら免いぼくなくて今まで
すや此告紙きてはじめて宮門まこのつまる
たせ申て形もうち志ほされぬまばなきん人を医まて久つさ
法ほまーたる法内を守紙をうこれ紙又
大王さ出て先ー法心をおごらよ仏もゆなーれのふほとな
くふたる医前にすみ多ら法まは是を法覚ごて法うま
みふ潜ほせのそ紙そ社をもれたままそず
社ます大子はゆいい社ちなゐほ法今まごふる医縁梨

多ふいごーてう世ふおはー法さんと王師も此みをと
うをゆゐていごでうすーさ場ゐなそぎおごら養ーまるあ
まら都を出はじ免跋伽仙人社とふ場それらゐ中略ゐて太
子にまんえまゐ大王乃勅を醐ーまゐそれ法う人まことを
法うーふ太子の理をとる世ゐひーさ法五人をとごめう屋ゐ
ーことよう今尼連禅河乃さそら法におうーはて苦修
を修ーなふ法ゐうさまを独やうま養ーまら法大王はこの姓
うくをきこの世ゐふにつきてそなごう彫ーまみそのを法さをゐよ太
子そ輪王社法位紙を恩愛乃急孔みをもすて法勇
のび志き法山よおはー法善行を修ーのふ法ごうくは

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

福分(ふくぶん)ずくおはしまして、この珍宝(ちんぽう)を得(え)たまひしなるべし。
ことよみこのくすぐれたまひしなをうせまふをえ
すべ形くかたちの多々の大まま人耶輸陀羅(やしゅだら)まま人などえもいひえ
ず王呼大臣(おほおみ)たちを召(め)して勅(みことのり)したまはく「汝(なれ)ら速(すみや)かに
あふぐれ大王(おほきみ)車五百乗(くるまいほあまりをまま)大まま人と耶輸陀羅まま人
とを乗(の)せ車五百乗をこぞりいらゆる衣服(えぶく)食物(じきもつ)など
類(たぐひ)ふ処なくととのへ車匿(しゃのく)をめして勅したまはく「汝
子を生(うま)きまゐ山よりまた形(かたち)をかへて今此(ここ)に来れ車我
領(うけ)ずかしこにいりて汝(なれ)ら供養(くやう)したてまつれ」と記
ことおそして汝ら供養をそなへたてまつるなり

事(こと)あらぬべしと車匿(しゃのく)この勅(ちょく)をうけたまはりてすなはち
車を領(うけ)じて速(すみや)かに尼連禅河(にれんぜんが)のほとりにいたりぬ
いまして太子を乗(の)せまゐらせてはるばるとおもむきぬること
らぬやうなるはあれおのれもなくおそやせのこし事(こと)もおと
ろく血脈(ちみゃく)もみなひかれさせたまふすみやかに停(とど)まり
堪(た)へなるさを着(き)し形(かたち)ごら大王の勅(ちょく)をうけ
をのれおろかなる事(こと)なきを計(はか)らひ又大王のおもとに
をおもひ悪(あ)さをせのふことをかうむるまで自(みづか)らもたぐまれ
みでおぼろかなる事(こと)をうまんやとの
たまひて此(この)事をうけ給(たまは)せのそのバ車匿はこの

大王へ奏しまをさくもおぼしたせんうさなり別人をしてこの
車どもを領じ七日を期として私奏しまをさくまゐらせことなり
うらはとでまをして私そう小太子につくへきまをさくまゐ
まをさくこれよりのちまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく
正覚を成じ七日をすぎたる日心を念じのふたりまをさくまをさく
りを修しこの形おとろへて枯木のやうになりぬれどいまだ解脱を得
ず法は実乃道をは行ずもし閻浮樹の下におはしまして思
惟しのごとく法のごとく修行すべくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく
欲寂静これをもつて実正乃道ならめと又念じのふ此ふたりの人
法所をすて正覚をとらばをろくたがひ外道自餓乃法是涅槃

乃国なりといえんにちまは毎日乃食をうけ
ずしてかう念じをそのち座よりおきて
おそれ尼連禅河に
ふこれ小二人のむすめ乃勧奉勧力といふさきに太子うま
まにせみづから相師輪王とならせみもむと台なりぬときて
そ乃后妃とならんことを乗じて十二年中貞潔をまぼり
十悪をなげすて清浄乃行を修しぬ今十六年の乳乃粥を煮
て苦行乃仙人に供養せんとおもひそなへ乳をとりて破羅え
器にいれ煮て粥となしこのとき浄居諸天太子乃供のため
食しのごとく正覚を成しのちにと思ふをそれ威力をたすけん

とおほして茶ばしの中央力をたゞきこのものを乳器
社中におき是を護しのふそれのの乃中に種くの翰相
阿こも氣を行といふ道あるまゝあて此相をこんこれを食す
氣人はこのふ乃毛上智恵を磁すべしと勧する時ひ婦
まゐて二女こもひまきまきるもあまて大比ふ多ぬこの
乳乃粥をゐもて氣ふほどこはまきるとこふ二女君ふほどこは
爲きにこのごとて施ごを行ほいなげゐてさまぬ二女玻瓈
おうまるまこのゆを宝鉢ふうは天帝釈二女はまくま立のふ
梵天浄居天形どをいきぐさ落こにに立のふ三女天帝孔ちのふ
をこてこの乃氣のたもをはぐをらんとは天帝ハ氣よ儲るこれ

ふほどこはよと孔くまゐいて氣のそ君よ儲まのやいの
形落人男とふ梵天まをはいて氣のそ
なゐまこにまれこまも氣よまゐ孔をはふくふ
孔たまはて氣の又浄居天ふほとこせちと志めゐふ
浄居天まれも又氣ゐすくまゐ若ふはくこちとみやふ
二女ちはいのなほ人のまらんやゐ歌は浄居天のまの鉢
尼連禅河みて洗浴ゐ筆力おいまはて管みもみだ宝
がうせは防のふ人ふのうの人氣ゐ儲ちのおりきて
まれよとをゐのふ三女これをうをゐめて泥連禅河よおも
おきぬ太子は洗浴をそまてみをふのそんとまふ防の

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

かおとろへ今はせまりてわかさをのぞびこの河岸ふ樹神女あ
ひこれをみそめてまゐをたのらんとそ我れぐくたすを
まらんと云太子ゆもれぞやとそせのべ女神なりと答
たてきのふはちらばやふまゐあふくことをえず家たゝめよ樹の枝
をきまらと告のべばやがて枝葉をれぬ皆をちぢのびやうく
ふ家にけぼのゝのぼ衣をつけ宮の樹下はゆ〳〵ふこの方
二女か面をもちてゆきのへますみ所をくぬやまひて太子
にをふ自他ゝ利益をおぼしてこれをうをはせのひこみ宝
巻と共ほどすやと宮せまゐたのすを踏
ぼきばそ乃ゆを閉ひちせまひて泥連禅河め

太子二女に契ひ此郷をほとよひて何れ彩ぬとももれそと告
せのべば雪山乃南なふ劫比羅城ゝ太子うまれさせのふ相師お
しまりて必ず輪王とならせのふ二事ゝ一事ときけバ
家ら此のゆを倍棄しまゐ功法をもて彼妃とあらむこと
をねぐひ仏弘ゆとこたふそ乃太子は世ゝ中の欲楽を彩ひ
のそゝ今はそや出家しのひぬと告せのふ、ゆまら十二年の
中負嶽を南をもちもて功法を修し此乳乃粥をとゝゆゝ

今君に供養し奉りみなこの方太子我世あり〳〵得わ〳〵なる
の国出家したまへば修する気処の功徳をもて彼人の所願を
成就し給らんといふ頌をとりていふ

彼悉達太子 世間最勝人 若欲求所願 當令速成就

太子此二女れ児孩をときなそ添ひ我世二女れ所願
与らんとれたまふ二女これをきゝ給ひ喜ひて退きま
け里太子は乳めの母なる摩訶波闍波提に告給はく
云根むうにこのふさて佛まさに仏道を成ぜんとおぼ
南の里おどろきなやしみ悲こゝろきく退散〳〵ふとおもひ苦
ふあるこゝろにて太子懈怠ありて苦行をすてまふいまざるふ

処をたゞ今おこうあのはゞ後あなこといひ
太子をすてゝみな婆羅痆斯仙人隨処施鹿園に中にう
とゝもに此教を修せよ阿羅漢ばう随ひて出家せん
少ここの五人おもゞ処ありて修りなりけ
まで世れ人五人とそいひ今佛太子は河岸をうるこる
たとこのまませのは清浄ゝ処あゝばとゞまら給へんとお
ぼし佛覚り後のふ孤石山といふ山にのぼりたまひ花
このみいたうう佛たうう天えうれバやゞて此山に登らせ
平なる石ゝ上ふ結跏趺坐して此人を此山たちまちに地を
ぬおどろきたゝせ給ふてなほ悪業れにそおはしますや

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

とおぼしうたがふせのふ空中より諸天大
らふを告をらせのふむこのより悪業おは
相は菩薩成道より法乃善根功徳
なまんば大地のちからも載をふたんば今此地
道の処ならばせの中にふたまんぢて地も載すふて
多くの仏らがもとも善もとも多きもの二のみは悪をも
ふをも多きもみなの今菩薩善業のいをおうおはせ
ば此のおはづうたをうぶけ仏ふまをなの尼連禅河をすぎて
ふもんがに金剛地のうへ乃至過去現在未来ふそうへ如来
おとうふおはして最勝智をおはして

巻四之十一

おはして無上智をおさせのふべしと
うまおはしまんとて体足をなのをさせのふばのゆま
せのふにみを蓮華でおはし出をふらもふ海はみな華花
地とそのの地ふませのへば地うをぬをひうごきて銅の
うへのふ動善瑞庵のふ
庵まうて菩薩をうぐふまふ風をうて神はそれ
清潔をとふれへ多ふをうぐふ神はいはくこの甘澤をそく
ぎてちまほうをおはして菩薩此相を悟覚をふ
にのならばで正覚を成とのそん事よりと
河ますめふ於阿那律陀
名を伽陵伽といふ面目ちひうふ仏せ

ま生のふまひとなまじそれ因あきらかなることをはもし佛の
滅後ありまねれば又因生ことなのんいのむる命ずきと
孔雀のごらん此彼大地のふ象ふをきくをきく又佛世生さ
せるふやとおとひ乃宮ちまいでうぐひて菩薩九三十二
相八十種好をそなへ此せるひは光明九千日のならび生たらん
やうに乞ねがやきのをを見ま頌をときてほめ事
曾見諸菩薩　成佛具威徳　昔見與今見　二見無差別
我観初行歩　復観左右相　能受世間供　今成佛無疑
又瞻披衣服　入於泥連河　河水變清淨　今成佛無疑
大堅固勇猛　行歩如牛王　亦如人中王　今成佛無疑

上飛遮沙鳥　下有祥瑞鹿　見相甚端正　今成佛無疑
和風甚調暢　微雨從空下　鳥讃樹低枝　今成佛無疑
清淨光嚴相　猶如閻浮金　面端如満月　今成佛無疑
於王は此頌をきゝをその於宮にの色ありいまの菩薩伽陵伽
於王の漑じ事をきゝの世のごとおほく帝釈天王菩
薩乃ちそを知やぐて香山より柔軟吉祥妙草をとりみづ
から此を愛じて儛力ありそのを吉祥草をもちて菩
薩の床まはりのこれを佛覚じてこををもてをばまのそなた
ら象此草をとりのごと菩提樹下をしき坐

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

しのそんとすれば当おおぜいら君に免ぐ仏は菩薩このおを申覚
すまばなかまさ今日正覚をはなそんおをうたがひるおば
しき帝金剛座におぢらをもつし結跏して半の足を
れおどろく端厳勝妙をおはまた帝こ
口にとなくちをのふ家今ここにおまして法滴をはくさずはこの座
を起帝と志の気ふ魔王孔宮ふ二乗れ幢幡にの生一をばも
幢とのひ一をバ憂幢とのふそれ憂憧なちまもちてうごきければ魔王おど
るまて災損害せたらんとおもひあきらく釈ず侍よ菩薩の金
剛座にましのまを見まおはれそ此浄飯王孔太子にわが憶を
侵ぢまざおうちにもらくの障まをなさんとおもひ眉を奮ひ

目を怒し舎那衣をつを化して小使者孔形となのたうそろ
ふ菩薩孔ほまへよ油あるま告まる気君今いふみてやすをよ
おにましたまふ劫比羅城ふは提婆達多ほいはるまや
人妹女ををーたづく先もらくれ釈種をもこそこしまふぬ
と菩薩これをきくをのひはすでにおこそうごうをのひて
耶輸陀羅などの三まふをもそれおぼしあいきをいうぐる勢ひをのまむ形どや
あいきをいうぐる勢ひをのまむ形どや
しのへしのふおまは座にかまていうなれバくる気はるまで
き心乃起まけるなちんと親し侍覚ずれバ魔のまてうき
たりて形や侍しをおこととを去ろし三種孔善心をおこ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

ちせる小虫離れ出心不殺害れ出心不殺毀損乃法なるそれ
与ゑ又慶まうたため仏生ゑ君仏れゆゑに菩提樹乃もと
小雪一ゑふとゑまま無上正智を以ま魔王いのでたくのふ衆者なんちび
無上正智を捨しゑんや菩薩ころとれ中自在成就を以
とれ死胴倉をなんすらゑほ欲界天乃
たゆいそんや衆無数劫乃中小無量百千抱胝那庾多れ胴倉を
ゑび有情を利益せんことをおもへばすてぐき頭目手足
血肉をもまで妻子男女もろくれ珍宝をもすてまは
みな無上正智を捨せんとおもゑなゆ業義あれから名雖
無上正智を得ぢ気ことはあらず象今決定して無上正智

菩提をうゑきなゑと魔王家ひと変胴倉をなして欲界
孔自在天王となゆしことハ君捨しまろくれせバおぼつなくた
君乃三無数劫れ中にうずかぎゆ形まで妻子男女金銀をも
足血肉を捨しまで妻子男女金銀をもすてて有情
を利益し無上正智を求めたまふはたれゆ捨す者たゆら
んと菩薩そのときまでもまをもて大地を打ゆれ家を
捨すゑゐしと孔たはゑば地神地ゆ虚空れ出ゑをいゑ
して罪者かくれさとうかゑのめしせ菩薩れのたまふこと実
よおなしうの雑ぢといひ捨しまゆぬ魔を王これをきいてもぢ
いまてをれをもいをぢこのほうくちやいまた系やう虫て威法

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

をうーなさし意よおもひめぐらし多方便をなせどを浄飯
王は太子をすてゝ更に捨じたる又異なる子さとそ
いふもてそれ障礙をなさんとおもひつさるまぬ先より
魔王に三女ありみなすぐえんに天女ありて中みをことにすぐれ
たるくへを汚どもすべてを名香のほり妙瓔珞をたく身一を
漆欲といふ男二を能悦といふ芸よそ
の父れう事へ仏法をえいぬこのいたう憂一つまの更ぬ
里住でをれてのちぞるうれ仏の更法のもろひをき自在乃
神通雲にの里金剛座にはぬの法のもろひをき自在乃
弓をとり智恵をや志をとして衆生をふせわざ憍慢をやぶ

らんとおもふ我をこれを除こりたまへとて宿生の礼を信じてみ
なをとく皇帰依し家国は必ずおさまるべし此事
をおそれうまふ仏なめされば道を成せば礼間ふゆきてそ
礼宝をみて彼岸に仮名の橋梁ぬくぐんとおもふとも
ふいそぐ帰とて魔王はまふつらきこゝろをともいつれ箭を
そもち男女をんぞくと芸よ畢波羅樹のもとに下生菩薩を
生死三有苦海をわたるためそんとおぼせば寂然ぬ
してすてを動じるそに魔王手に二の乃弓をとり箭我
とれへ仏前ぬたもて君は利利種なれいと悪ふ魔まへ
なれいで速ふれたもものそぢれをやうたもて転輪王礼業を修

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

一出家学法をすてたきに施舎を祈るの屋
一これ第一先聖おこなひ給ふ道なり利利轉輪王ねたねに
おはしまして兵士と形をたまふ應じ給ふことな
ほとゞきにすゝめなれど菩薩はすこしも動じ給ふそれば魔王
髪を見まわしてすゝみ起ちそて安全を得べきをうしく
今たゞせばそれば年折をすてゞ多くうく安座しの給ふ
詰ふ君を射んわの箭をこゝとたゞそれて眩迷をばふ給ふ
すら箭ぜ考をきくおどろきおそれて
いそや君これ毒にたゞせばそんやなどいひおどし給ふな
ほ怡然としておとろの給ふそはいうくいうをひき

毒箭をとゞめたれど菩薩ぜ法自ら覚せば箭をば覚ふとゞまりて
ふらふとでまわりてやぶる蓮華となりて下ほる魔王まく
乃三女を使おやすむ三女おはしちくまわる君は至法
おはしまして天ようやまそれにせる供待菓を
きゝぬことなり家らをわうかもちもて天女ぜ中家ぜまさる
乃ちなれば天わまらる多ゆ人ぜ
に法ぐさらふ仏ぜことをゆるにせまくまぜ菩薩すてき善根をうゑ
てのちもちうたゞみなこびふれまく世乃無常を覚
ば心多くしかうびて婬欲をもて人を惑ぜす不善ほ

天社果報いきなば三悪道の中にこのうまれて鳥けだ
ものの如をうくべし是をまぬるあくまといたうくから
ん今家宝意をみざらんとおもふ清浄にこころまあら
れもちふ法心なしとあうまきもちゐんやまた南ふ仲
おとをうをのかしおろかなもちゐんやは二の老母と
なる五今までになて届めしこのわしおもつげとなく頭去
ろくおそてまもみ歯おもち屋せおとそうくあしをとよう
てもとのぐまうもなの少み打ば三女うみよんうそしおどろき
さぢてゆをかまもつみるまは四たるあことをえ又
らばまへうれくおもはぐくまは魔王羅睺首羅天をさへ射

てそ社善心をおるまぞをしおをひはるをを今家業の三女を
もてころ曇孔空をうこのしはたちふ話の方役をなて
ゆしとおもふ金剛座ちくまみてことそをやもちげ君
も人間をねごひみそばば天宮よ社ぼうのゆべしおれ天位我
すて五欲の具をすてみる君ふをふ屋ゆしといひそれしをま
までとなみこうごかせみそん汝すてきふ施れむこひまて今
天の楽をうこれど此後はこのきふあ王里果報はきぬまバうまら
ば三途ふ沈むゆしはれぞそれたのつみをもちひはとれのい
うゆみ覚ぜちまで魔王せんくまなくふおそ泉べき異形乃
軍衆をひいみ四方み央を超てそのほれ天を

法き風ぞをまう吹て大ぼらは今ふつまを塵とみうちそまうも
ひくてなやもひえぞ四大海乃名一時ふあきあぢ天地ふるひとどろ
く音はとおそろ〳〵護法孔旨をもろく乃鈴鬼などハはさ
これをいの名魔軍百重子重とこかぎのなう折りそみなの
大悪毒をおお〳〵天地とどろきあくまを動ずふことなの〳〵おくかをたそ〳〵て宝意を飛〳〵まらん
とたまぞ菩薩はこれ我たぐあ〳〵へべれそまれとのそ
ふ悩えど衆菩薩九慈悲のちこの〳〵威神乃ちら〳〵れ
ーたまて魔衆いーをうるんを拘けどもにつぐふふあの
らぐ誉うるをのそ又下すにそぐら刀を取〳〵剣を舞せ

はみをふらうそまう雷をふるふ九火をふらせば五色九花
ちの悪気毒をそけば変じて香風となふ浄居天九衣
此悪魔乃菩薩をなや法〳〵まるれ我いたまーうおもひ形
げきて王事ふて見まうのふにふのちまふ事ふこのそ〳〵せ
のふまとそおは〳〵法ぞぐおそれぎなきはさ清廉九むらご
ふまたふ中に師子王九ふるやうふぞ天衣みをお
どろきらそぐ鳴呼ふ〳〵ぎなるなかふ魔軍の中にれ
ハ〳〵ふてすまー動〳〵のそぐ天上人間かうやう九人又なー
とそおぼえぐのならぐ垂上正覚を成〳〵ふぐきあのと
いぐ讃ぐまる魔軍は一毛をも得うごう〳〵まらまバ魔王

うまうまの一切どもをかぶりて空中に負多と仏の
神力の所をひらきしてふるうの告ていふ歎今年
尼尊を見奉れに随意ゆたこのみておそれなきふあ
里さ海すこてをおこてまさぶ芸をもらくし魔寃毒心をおこ
してうらみなきみちこさ海よいうまを生ぶ此おそこのなる
悪魔いぐづらにえぶこの名疲まて永く沈む処なく今すみや
のふ恚害れ心をすゐぶ一妙口をもて須弥山を吹たふ火
をえ勢やかふ名をなのう形ち地乃堅きをやもらか
かな形ち力あるとも菩薩ぶ劫ぐをへ修習しまふ善果を孫て
正思惟精勤方便浄智恵光此ら仏功徳は壊しうふこと

なしたまバいのに留難を形一身体ともに成正覚をたる事敢
さとはたこの名ぶ憶ざる処なら子日なるべくらき処も必ぶてきらになる未成鎖ば火を打地をうごてば
名をうふに家とくく精勤方便等ぶ仏ら乃功法を求まバたんでねばとふことを形一菩薩のなら尽正覚を成ドのふ尊て
世間ぶ在生の三毒におぼふくをすこふもぶらば善薩のう
慈悲そろくおは海て智恵ぶ薬を求めて世乃うれくを
除きのよを治こ仏を悩礼一まらん
おろのふてはど氏多く智恵なうして報見ふ著ぶ今法
ぶ眼をはうけて正しき道を得ぶ在生をみちびこのんとおぼ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

ほ又衆生智恵ひろ生なく大黒闇の中におち茫然として
てすゝみもやでく処をまらでほさの智恵ともし火をて
らしてその道をえせめそんとほこゝろ深宿生ゝ導師我ば
汝いのなまばはうそをあべきとおもひまぐに義さとて今は
樹下に結跏趺坐しぬ決定して無上道を成じ
おの地ゝれ過去ゝ諸仏ゝ金剛の座なをもれ地ハおとぐ
く轉ずまどを此処はうごうで妙定をうそ深ゝなふ汝がおを
きれとくおだきうゑことおゝなゝなんぢよのちこゝびの後
を生じ憍慢の意をや免今よりの私識のおもひをなして
奉事ゝ事ゝ魔王おの空中ゝをきゝ又菩薩の

恬然として住ゝれ地ゝの生ゝまにすまゝをかそらせおのそぬを
えをおもうほんの心すなそちやみてゝおゝのちゝらの友ゝ
ぢおをえおすゝく宮ゝの室ゝぬまばおちうをゝおまふ
法魔宛悉くみるうまゝこの方ゝみ威力をもうせてちまくおそ
ゝ生ゝ室ゝ二月七日ゝ夜の事ゝで有け薩婆多によれは十二月八日ゝあくまの星出る時ゝ魔
を降伏ゝをはゝ生ゝ人悪魔おゝ菩薩いなく
ゝまゝ放きゝく濕延として動じのそびみるに雲霧な
く風えざをなら吹ゝ入日をなの降をうをとゞめてますく
ひきらゝに月すみて星と芸はてゝ
く海ぐまてゝそうおとほうまてゝなうゝ菩薩妙覚ゝ法の中た

えば加持を修し一の人初夜今に神境智現前智通を成就し一の次ぶ他心智を得んとおぼせば夜中にあまねを統摂して次ぶ宿命智次ぶ生滅智次ぶにたちまち明星いづる時ぶ霍然として無上正等菩提を大悟覚知せたまひ仏弟十八法を具ぶ十神力四無畏おはしまし此大地十八変ふるがごとく大そらすみやかに天鼓おのづから鳴る香風やをらこのに吹いろく乃瑞雲たちそひてうんちのあを降し園林ときぎ我も法たまはさる前おのみ栄ゆる又曼陀羅華曼摩訶曼殊沙華曼摩訶曼殊沙華摩訶波利質多羅樹などの花ふりめぐらにふる至七宝の蓮華ふりまそいたるめぐりもなく菩提樹を

免ぐ涙もろく天伎楽をそなへ花蓋ちらし香を焚き宝
蓋幢幡をもちゐこくうにみちくて如来を供養しまつるふ
浄居天諸天もこのうらうるこびよたくそび欲神八部等
供養しまつるを一切の生もろもろもみふおぼえず仏まふる
のちびふなれみいのてこいのち害すな心なく凡夫おて仏まし
人社聖跡をみてやうふてそれおそれおそれ
おのらそきおもひおく心は仏まふる後よびあへまこ
悪道ふ仏法そのも忘そしてみやこ黒暗社辺生も光
明ふてあきらのなまばら経おびなくふことふ
ぜ甘蔗社先王の国をすてて道を修し五通仙をはのりし

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

なる又十善をおこなひて世を化し生天を
形神通に楽ごして菩提樹のほとりまで
合掌し讃歎しまゐりて初の耳蘇種族のなどにもく諸漏を断
ど一切智を成ど世尚れたなに両眼となりまふひと見おもらるる
こともなきともらこでせまふ人天をはじめ心ひの気もれかうみなら
該さびのまでだに魔王おみられてうなこと搆でひのまけ
法をきに魔王天宮殿をおうごき幢地ゐたまま魔王れもそ
乱ろまもまれの三十六拘胝をもろくのをんそくと共に弥不菩薩
ふのちはばまこと我ちよくこをうくみおもひまごらでせん
まこなればやで却比羅城よゆき所をかくて釈迦牟尼ぼさろ

もろくれ苦ひを修し金剛座ふれほまゆひなごこ虚命をそら
せまふとおそたとこう告ま法浄飯大王をはご先生まこれをゆ
しめ十おとろきう形まませのひもれをおほそちせまそご大夫人
も三夫人も絶入なふやくなまばちおなる人くに法面にみをそ
そぎなまなどてやりくにたまをなまを法を説くれ大臣百官う
ちとれ人多きもいまきをなげきこの宮ちまいよだうなく
ふみをまに浄信の天あま魔死のうこう大王我はごめなぎむき
ぶけのせまふを見ひのまくく却比羅城よはぐ菩薩世をち
らせまふとふ我はふことふおそひのまほぼきふは現ま金剛座り
おこ降て無上正智我説しちせまふと大王をはごそれを

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

きこのせの名又法脱ふたへにせめそなたと
人菩薩ハ無上智を得しかたまのふとき耶輸陀羅夫
こだせのよご宝てわこの宮をうま智のふお彩ときの解飯王
ふもわこのみやこそとおそろうまま古せのふ大王ろう免でたきこ
ととをおはしほどを古覚じて法脱みそろもなのまへせ
たまへだまづみこのろて城中乃地をさらひ梅檀香水をも
てそそぎ四のちまへみは香鑪をれきき名香をたきろとど
まほいろ旛蓋をこのをてのぎやくふうのそへき花を地ろ
しきうつれ城門ふて大施舎をなへあへゆるはつ婆羅門
外道梵士ろの貪ぐへ孤獨乞求れ者までなまのまくほぜを

こにせのふなほ又ちまへにわきてもほどよさをのふ解飯
王ときこ子なゆえふはゆうけほぜこにせのふことおなでやう
みそでせにろのふ耶輸陀羅夫人乃法子れ法名をたてさせ
のそんとそ法親屬をなのめまゆらせのひとそせのふまこの
宮うまれさせたまふ時羅怙羅月我障めまばとそ羅怙
羅と名ゆをまゆへせのふ羅怙月を障ふふと月食れこなり解飯王も法子
のほ名をたてのそんとそ法とんぞへくをなつめとそせのふこの
ほ子そ却比羅城れ人の皆よろよびへ一日にうまれにせたまへバ
阿難陀とぞ名ばけにせのふ此の難陀とは歡喜とふことを大王罗怙羅王子
れをおとみそおはまほをかぎろなろうまへとおぼへさ

まのびたるごとく菩薩化生して出家ののち後年をへてつまびやかに
におぼされてぼちのぼだいの樹下ゆてお
うちくうたごびしゃもを耶輸陀羅夫人もれきりせうび
くちをそうかがうようおぼしまして又大王の牝ほだいを延をそち
おそれたせのこぼうをいだきまゐらせのびて菩薩の
宮におうはしときに深浴せたをみびしゃ池ほとりに
おはしまして大きなる石をとりたた
たふれたせのびしゃ石ゆでなのそ羅怙羅王子を出うみ童
せのびて合掌しちうそのふ此王子ちうぼさつれ子なら
ば今池よりなつよいれちいきて汝まぢうんも菩薩れ子

にたゞずみふたゞみ没せんとかう誓をときをそのれ
せおうせのびしゃ石と共よいだきて池れ中にそれちのへばみの
はうようびてうきをるれやうに風れまふく水のうへ
多ぐらびおはしまして志ゞみたまたゞ大王これをきこの形
のびしゃ希有れちとおぼしおぼして此池のおとのうに声
しゃのふ羣臣ちうこの乳母れ子と共に波ようをこ
のゆ我ほ覚ゞはちうこゞがぎなくみゞのう池よりせ
たまびし王子をいぐきとらせのへばぜゆゞぎにおはしまし此後そいるくおれ母こ子をうやまひ法
そゞみまゐらせのふことおよまちまつりしせ尊は垂上正覚を

成じたまひぬるより火界三昧にいらせたまふ七日を経なほ定を起せたまはざるほどの久遠をとどのせたまふ

聖道甚難登　智慧果難得　我於此難中　皆悉已能辨
我所得智慧　微妙寂第一　衆生諸根鈍　著樂癡所盲
順於生死流　不能返其源　如斯之等類　云何而可度

大梵天王如来をすでに無上正覚を成じたまひながら法輪を転じたまはざるほどの天宮よりおりさせたまふ

うで如来を免ぜざること百千市し法宝を礼し一面より塁し白

したまふ世尊むこのよりひさしく生死中においはしく

宿生死のために所をも頭目をもすて王城妻子珍宝をもすて

なからゆるさゆみをうけてそろく法女を修しむ今はじめて無上菩提を成じむふいうなまばほ法をとどせたまへばほもろくの有情なくく生死乃うみにおぼれ無明のくらきやみふまどひこれをいぶかしせになきなよちのびきまくみてを後くの法女をうるしによの今を菩提をうくふたふまたものまへすくおろうぢ喩ねごとくは世るこれら死たなふ大悲のもろくをもて妙法輪を転じたまへといとねんごろ後ふ請じをまたまふ帝釈天王をはじめ他化自在天などもみなまうでおひやうに転法輪を請じをまうるふこれをきうせまつるほとけ

かうも一切衆生ためふ法輪を転じ
得ふ処の法微妙甚深にして解し
うせふとをもろくの衆生信じうけ
ふ生死心を生じ地獄におちんとお
おびうせふのみと大梵天王等此
まんど狂おして三度び請じ奉らせふ
請をうきけせふそれ時ふや成正覚已後七日を経ふまど
人の供養し奉ふもなく空ふおはして食飲せ
ふのそでふをいひ
ふうれひなき人ふ生をとふを笑爪といひ
村落と云此り名も多せけ

おほく百両の車にそれぞれ法みてゆく道せうそふ乃ち
とき二ひ人ふをもとふ多し此おきん
ふをそふめふで天上に生れたふなの此天ふ乃あきん
ふをえてれむしれなふ今佛を供養せ
ふきなればおひてうやうせさをんとおもひ
なふて大光明をはなちそれ車どもを照しまして
虚空より告なんぢ二商主釈迦牟尼世尊を供養し奉ふ
ぢ世ふ今尼連禅河ほとり菩提樹のもとにおはま
ほはぢえて正覚を成したまひ七日ふ中に煩悩を解脱し
ふ乃安楽をうをふいまぢ飲食せちふ
ふ人ふ供養す

法なり。汝ぢ、すべからくまさに供養し、まほべし。はじめてくやうす。家者は大利益を得と。この言をはりてそのふるさとに還りき。人ありてまた我ぢおどろきこと殊勝なり。世尊に威徳すぐれたまへるかくのごとくなるを。天のわれ等にをしへて供養勢さしたまふ。形貌もといひつくすべからず。仏世尊にふたたびまみえたてまつりて法を聞きをはりて、また酪漿麨等をもちて世尊に供養したてまつらんとねがひまうす。世尊、二人酪漿麨等を受けたまへり。手に持ちまうして世尊に奉献せんとおぼしめしつ。四天王、仏の御意を知りたまひて、すみやかに四の鉢を奉る。世尊、二人酪漿麨等を受けたまへり。手に持ちまうして世尊に奉献せんとおぼしめしつ。四天王、仏の御意を知りたまひて、すみやかに四の鉢を奉る。世尊、これを受けたまひおはりて、また清浄なる水をもて洗ひたまひおはりて、また諸仏みな鉢をもて食をうけたまふことをおぼしめして、すなはち四の石の鉢を捨てたまひつ。この食をうけたまひおはりて、過去諸仏有情を利益せんがために、いにしへの道のやうに手づから食をうけたまふ。

ねがはくは慈悲なるまなみをたれてこれを納受したまへ
もし一をうるものは須臾天のうるみをこうむることを念じ
四方よりすべてうをもせめ世尊よりは神力をもてかさねて
とりやなくこれをもてこの乞人の供養をうるをもせた
まふ供をうるをそらせめ四天王とこのよりあきんどの多かる
呪願をはりて二人飯を授ぬ域は飯四天王も二
商主もかう呪願せしをたまふをうけおはりぬといとこころよげなる
うちうちよび礼拝し四天王もちうまつるふなきんをさうめ世尊
は鉢をおさめたまひをそうをおこたまひはあしをあらひなど
せしむるのちにのひやくかの驢酪などを食したまひしかも
風雨うまんせたまはんを魔王見たてまつりて
しを礼し世尊涅槃せんときいたらせたまふやう涅槃はいらせ
たまふなんぞそちう世において法をとき一切今涅槃を
なさせ魔せなやまことをとき一切今涅槃を
はなはだよろこびそれ仏は永いまぐ安穏
此呪願をはりて二人飯を授ぬ域は飯四天王も二
商主もかう呪願せしをたまふをうけおはりぬといとこころよげなる
うちうちよび礼拝し四天王もちうまつるふなきんをさうめ世尊
は鉢をおさめたまひをそうをおこたまひはあしをあらひなど
せしむるのちにのひやくかの驢酪などを食したまひしかも
風雨うまんせたまはんを魔王見たてまつりて
しを礼し世尊涅槃せんときいたらせたまふやう涅槃はいらせ
たまふなんぞそちう世において法をとき一切今涅槃を
なさせ魔せなやまことをとき一切今涅槃を
はなはだよろこびそれ仏は永いまぐ安穏

所爲布施者　必獲其利益　若爲樂布施　後必得安樂
福能招樂果　所願皆成就　疾得圓寂處　當證涅槃樂
勤修福德人　所有諸災横　及以天魔衆　皆不能侵惱
若發勇猛者　具聖慧能施　當盡苦海邊　必得無爲樂

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

仰至て法のごとく合掌して与く異論を破しそろく心法をたゞす衆者あらば又四部弟子比丘比丘尼優婆塞優婆夷并子あらば又上天下界ふも十方世界ふもひろく永法を志すも弘く梵行を修しみる衆ろくなきらにたる者あらば此諸事をそらばれまた涅槃よりらびと魔王此法そうをうをのうお後なや法ゆうおぼえ此をかう一くはうのあるを生ばうて訶梨勒林ふ樹弘下を去ばうて訶梨勒林仰至帝釈天王世尊弘のせをうれへはなのふをえなを生かえ林においはして訶梨勒菓をとの世そるえ時まへよまうでお弘果弘食すれば風寒をはそきぬ仏生ねのたろくは世尊家

此菓を更出せのふとそこの乃菓をなまふ世そるこれ我うけきせたまひのぜ弘はうこもはそきこのふは菩提樹のもとふたるせなひ年枝薜陀弥王弘すめふ池乃ほとめにおもむのせのふ道ひとふ弘ふ道に乃ひふ名を優波伽といふ如来弘佛相好はせよ免ふらしう諸根寂静ふおはすをおもひをふ一偈をせいてみふ

世間諸衆生　皆爲三毒縛　諸根又軽躁　馳蕩於外境
而今見仁者　諸根極寂静　必到解脱地　決定無有疑
仁者所學師　其姓字何等
世尊弘と弘偈をそて答たまふ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

我今已超出　一切衆生表　微妙深遠法　我今已具足
三毒五欲境　永斷無餘習　如蓮華在水　不染濁水泥
自悟八正道　無師無等侶　如清淨智慧　降伏大力魔
今得成正覺　堪爲天人師　身口意滿足　故號爲牟尼
欲趣波羅柰　轉甘露法輪　是天人魔梵　所可不能轉
そなと紀優波加葉仏偈をうをもみのうえにおくことをえざるがごとくに
阿羅漢辟支仏合掌恭敬して
して去ぬそれよりかこのおひて仏
ーのふおもに此地ほとり七日すぎなばやまびこのごとく
をきの仏世尊ぢ冷趣とぢ

もろもろ孔雀やまらんことをも悪をおぢの仏をもて
世尊を七市免ぐる生のこらをみて世るの声頭上をおほ
ひまる七日ぢ後仏免されぬまバ我これを見て仏をとまる
んじて天孔仏なる生法仏ぢ
おひて海ちやうのごくきわのの仏のつまでなやまりまらら
ずやうこだせのそんこと我彩ひまぢなおと白しまて
まば世尊偈をもて答てひまるよ
知足果安樂　多聞者知法　不害於衆生　人間大慈悲
能除世欲樂　諸惡皆遠離　我慢悉摧伏　斯人最安樂
うう頌をとりせのひ我王に三皈を授けるふ三皈を授けるふ歎迦譜の説まよる畜生の三皈

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

初発心菩提心を頂礼し奉りて、おのが住処の
まの池のほとりにおいて、阿羅邏仙
にまみえ、孫陀羅難陀を召しまねきて、おのおの
ともに七日を経て、次に迦蘭仙を念じたまうに、その仙
もまた夜いまだ明けざるに、志誠心を
きこしめして、利益を与えたまうこと、人のみな大利益をうる
ごとくにして、次には阿若橋陳如等五人を
苦しみを脱せしめんがために、信心をもって
兼事供養しまつることをおぼせばまのあたりこれを度し
めさんとおぼして、天眼をもって観察したまえば、波羅奈国鹿

野園の中にありて、五比丘を度したまえるのち、五
人林のうちにありて、世尊を見奉りて、この
てゆ門、畏縵慢みて、苦行をすて、
ぼ、香湯をもって、酥油を身に塗
とを起てむことを、又礼敬をなして、お仕
ふをば、かくのごとくをはらえ、ほどもなく世尊おの
いきぬまば、威徳たうとくおわ
ことをもうしたまえば、みなおのおの衣鉢
をとりまつりて、後ろにあゆみ従いたてまつ
ふもあり、礼拝したてまつりぬ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

しかるにおもひもよらざるに俗姓を稱して雲水をうらび
まらん世尊憍陳如等にいまのぶちきみはわれらに等しと
も共ふたごころなくしんさとをひらきひおきて今いうなまばみなおどろ
きたもて家よりたちに遠やとに合まてみつくしたもうすす
みて曜雲道をおこなひにうみつうれのふさをおはしまさずやな
どいひまきらはしおたゞバ汝等いのなまバ無上正覚にむかふ
軽慢乃こころをもて俗姓をよぶやもちてそれ名字とよぶは
世儀の中にても汚まづき事なり今わまた一切衆生
ゝ父母なるまも俗姓をもてよバ大利益をうしなひ
生くれ処よもらく乃苦悩我うくべし今よの後なくバ

俗姓をもて家をよぶべうらバと五人これをうをのそいとゞ
だいうまてまきら智恵なうして正覚を成じのまひこと我
志らでたゞくく苦行を修しみひしをの身をして美食をも
うをのまをうんなまの道心おこさらせるこゝを正覚を成とうまおし
汚さバと社みおしはうまてまあおもうまバ
汝等小智をもてこの経ぐくう永道ひ成と不成とをそうる
ことなうまをしく人形ち苦みなれば心もなやみ礼ば身ふたゆ
なれば心もそれ楽ふ苦ふなぐく道の因ふの
らバたとへば火を鑽んとしてまれよ
ものをおして雲をてくことなし智恵の火を鑽もられお

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

彼の苦果みたまえば恵光あってそれぞれ生死やみをすくい
中道をさとなえで心もさめうみてうれ八聖道を修し生老病
死なくほしみをさなる彼くふたたまれ今此中彼のわおもたこのひて
正覚を成し得しものと告ぜせのごと五人これ仏ことをうまた
法をもとめうかこみと彼ぜをどもの仏ごんおもてをまもりてなそぐをそこばまをおそたときてう
世尊ら五人の根機を観じのように道をうほたよ爾れば
まに告ぜせのふ此苦聖諦ぜ法あれおきにいまざきの理の
ごとく作意す法精進ぜ力によって浄き恵眼を得ぜ智乃明覚生ぜ
生ぜ此苦集聖諦ぜ法あまたおきにいまざきかぞ理のごとく作

意す法精進ぜ力によって浄き恵眼を得ぜ智乃明覚生ぜこの苦
滅聖諦ぜ法あれさきにいまざきの理のごとく作意す法精進
ぜ力によって浄き恵眼を得ぜ智乃明覚生ぜ此苦道聖諦
の法あれさきにいまざきの理のごとく作意す法精進をぜ力によって
ごの意に清き恵眼を得ぜ智ぜ明覚生ぜと説をそこせのひ
又告ぜせのふ苦聖諦あれ今法ぞに断ぜ知ぜ此苦集聖諦
あまずでにおのまのごとく法あれ今法ぞに断ぜ知ぜ此苦滅聖諦
あまずでにおのまのごとく法あれ今法ぞに修習ぜ知ぜこの四諦をぜて人天魔界
梵界世ぜ彼門彼岸ら超過ぜ正智無上正覚をぜとこの法
をとぜのふときに憍陳如塵を垢をぜ法眼浄

を招世尊憍陳如に汝解しぬやと
解しすでに去事ありぬと答ふ
せられぬまゝは世尊阿若憍陳如
孔中の八方那由他乃諸天も塵垢
ありとき地神如来孔法輪を轉じ
ふ説こび事をひき如来ここに
陳ふとなふここふ孔天神これをき
吒天まできこふ孔ぼりぬまは諸天如来
中仙人の住処おもほして大法輪を
れ天人魔梵ばら沙門婆羅門孔も轉

たゞ聖者ぞみ実にひきうけ給ふ
ぢら五取蘊ぜ苦を生じ老病死のくほしみ愛し
ふこれおわのれをな求くぜ之ぎしこ
しみ求おなにわばぬの苦みたの
苦こは天上人間をはじ免いきとい
このまこ系ものなし火乃うな炎をい
へどをかはきぬ草をもてうまれを
とくたとひ法天乃ぎしみをうけ
ば又ちにのうこ系しみ我くく貪欲瞋恚愚癡みる家を根
として生ぢ三界六道ぜ果報を苦果とい
巻四之三十五

もろくおく系しみの因なり応生これよりて三界に輪廻ぜ
ぎぜは死ゆ系ぢぞくく煩悩の火そ八正道をもてこれを
れば清涼を得ぬなり已上道諦なり
凝を滅すればそろぜ苦みもそろ断絶ぜ滅諦なり是悉八正道
にようぢぞはなしさうにもとぜ
の浩ぜみおうをいなの四者応業身ぜ那業
の行をぜしすることの五者正命出家はを良なる
利者をうなことをせざることなの六者正精進常心をたけまし
いさらんことを修することなの七者正念常に飛空悪及八正道をぜ憶念してぜ
悪事をおもてばぜことなの八者正定ぜ道の邪定をえらび常に禅定を修し正智慧
をひもろくの煩悩をおこぜ涅槃ぜ相応すぬことぜ初

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

一切衆生之苦しみ其根本を考ふるに皆悪く輪廻して生死の
報の上に於て苦を去ら苦を断べく滅を証すべく集を断べく滅を証すべく
道を修すべく之を四聖諦と云ふ此四聖諦は
これ真実なり苦は苦ことに苦なる上に集はまたことに集なり滅は
まことに滅なる道はまことに道なりと説をとくときに四人ともに
みを捨て塵垢をとなれ清浄眼をえ法の上に道跡を得
もに仏法の中を乳一家なすでに道跡を得
仏ぬれば仏法の中に出家し道を修せむことをこひねが
ふ仏のそくは世尊をもてこれを師とせむことを
きこのゆえの乃五人我善来比丘とのたまへるこれを

おら衣服変じて袈裟となりみ形
ときに世尊とこえせのふ色は是無常形
ありてめはこのるもれて
身まはりそれをふ大悪色もこれ無常形
同せのふも無常ならば苦なるべや大法これ苦なり
と世る又とも無量苦なるべや一切山河大地まで未曾此形
そもそ爾きこれ色の中みなつねと答へて曰色は中に我あり
ぼと世尊告のふ汝等まち知爾
来現在にのら中は色もは肉もつ
のなる乃も仏は像をつくり仏をつくり乃
色みな家中にあるべきものをあるべきを受想行識も色

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

みな家よりいでゝわかれをおしみあらそひ海等声聞仏弟子五聚漏
比丘をして煩悩をきらひ六神通漏尽おのづから阿羅漢果を成じ小世に
宝とり一五阿羅漢を僧宝と云世尊のこの法輪を法
宝そなはらせ給ひもろ〳〵の人天乃座に来一切福田となら世給ふ
如来滅して後ものもらひなきやうにせよ
法こそ道は世の中に絶てなどゝ云べき故おろかなる

たゝを世そむき出ちせのひ三宝のそなたらんをとこ乃おとくいを免がらこのなゝ法ゆ事にてたふとき
ちまもなのくかゝや金口乃ふみをたゝめをひて後三ふとせ
ちのうふまにたまどをは住持の三宝れ弥ゝおはしまし今乃世よ
うまのれ出家をとがらはみめちきれ世乃善因をなくそも
おもとゝ永くこの形ちまて心なき家らおとをきこの法をう
をなめてはぎふをおもひうゆ迦のめくもなうこんやちれど山れ井
のこのちき心ふ繋山とげのおゝ浅ぎ法こそにおもひいまあびき
ふこの教信心おこらばまばかくのひぐこと
家下生れみのをえ法ゆとをなくたゞ当来の猪狗れみをゝ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

けきことてくうちすぐるなん家とあの此孔雀なのろ
つまそれは耶舎といふ長者子ひとりうまれなうら聰
明利根なるひとおいたらうさみおろ
つまうるはぬよ天竺のむかふの擽路をの女うさ
そらになみおてなのみなのくそ雀しめあぼよ雪れごとく
たれみあみびてはてねぬるに女もみを祖にうの果ふけ
て童子ねふめはえてこうさちらをこえまばこの乃女どもみ邪
眠いまて形おれまうふぬぼはいまつ女のあふきふすもあ
つまのみ乳またるをひうちふれをるぼくそあり祖おどを
いふもひめさざつまをすおもあり樂器衣物などみそぼく

おちうこひめ号をえて驚おそれ今までこのぼあくき災中
にあひながらたけくきとおるひかうをこがくそてき中にすこ
てうのうくく紀ら屋このなのとれを紀ひるまくよの中思ひと
はうおるふ心はきぬれバ起いでて宝孔くのをえさ添をお
とりく若哉々といひおれいでおとすぼをたすきをるふ天
ひつまふらに光ひめてあこのくくにおれぜこのくを
をとるふ屋めてあゆみ鹿野苑をれもむく路よ恒河とふ河
あゆみほうひにゆきふをあげて若なるこのなくとい世う
おまれこさりせのひ童子こくにくぼしみをたなるく法あり河
をわこまふおとれたまふ耶舎これをうをめてひくい閻浮

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

提七料な仏宝乃履を岸にぬぎおきて河をわたらせるの
ほもとにまの数三十二相八十種好ねんごろに威徳みちみちて
を見まもりかがやきうるおぼえらるるこび仰ぎ
殺ひまをて五體を地ふせ仏足を礼し繞をすく
ひらくと称ずる世尊よ汝この女善男子ひさらのにこれをゆるく
笑を思ひ念せよとのたまひてみ乃根機よろこび微妙よ
法我とのせのひ向てかくまふ童子色受想行識ま無常苦空
無我な法事を知やと世尊ふ耶舎童子一切諸法よおみて
塵を遠ざけ垢をはなれて法眼浄をうこれるの如来か
ちて四諦をときたまへば煩悩つき心解て阿羅漢果我成

ど世尊色受想行識はまたに無常苦空虚妄なるものとこと
なら法世尊阿羅漢を成ど形ばからなほ厳身具をつけ
らる我ら覚ど偽を世この形なまよ

雖復處居家　服寶厳身具
若能如此者　是為眞出家
意猶貪五欲　身雖在曠野　服食於麤澁
是故真出家　一切造善悪　皆従心想生

耶舎童子これを聞てわの道をうなら身をなほ七宝そ
荘厳をぬぎすてを仏覚ど世間をとこせのふならんとおぼ
す心ときぬまに父仏足を礼しねずもこれは出家をゆるし

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

ゑとさとりのふ世尊善来比丘とはえ
衣鉢袈裟ふ変じて供へとなりのふ耶舎の生のそひ〜行て
は人くねふちめて童子ねならぬをん驚きて父はつぎぬま
は又おどろきてお彩さこのなるあたづもとおれどをん
せうくすほどに衣をなをぬまどあ〜ねど長者なのきい懲〜を
て袈を生ふことをおもひまくふるみそてならねどをおもふまく
に道よ法のせてたづなゆみしが恒河ねうさならに坂のみ岸
みぬも彩宝履をうんる系にまごうこんくをうんる系にまごう
彩まば此河をわたしならんとおをひお渡て世尊ねまも
とにまゐてあ世る此長者子をたのもてこくみまうぬはことを

土器しめ〜もし耶舎ねし出家しるひ〜をえばこのみまた
〜ぼて命もおそうぬ者〜とおぼ〜ふ神力みて耶舎を
かこ法せのみ去者ふまくよはうで虚空を礼して世尊如来そ
の根機にとるこびみ妙法をせのふまゐ布施持戒八天上
ふくはそく周なふことをとこの勢のこ次にもらくね煩悩を
断すること修〜習ふまつとを説せのふ長者これをうを
のみ法眼浄をえて五蘊は実よ無常苦空無我なりとうさ
〜年ふ世る道跡をえて恩愛情のやうくすくなりぬる
をもろ〜ふ長者はなふねゆふ阿つて五にまうぬ家やと問
せのへば家まうとのみ子阿つて耶舎とりびねふをねふ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

にいでゐとてこの出ゐかけん切清志れ仏ゐ従今釈ちゐこれを聞
道ふ志心うごひまつて仏ゐに恒河北岸ふ宝履をぬぎおき
ねまば跡をたづてこれまでゆうでゆかしなるまと答せまつ
ぬ世尊おれ我ゐせおひ神力我をさめのへた老者ゐ前なる耶
舎を見いたくよ該おび出家せしなの実におろもしを
やうみびうる食しみるくんを食ほ仏ゐ法ふ帰依
も来つて道跡を見ゐなめとかをぐいび祝て仏ゐおる
向ひ家ゐ妙法を説今ゐ三尊形壽佛ふ帰依し法ふ帰依
僧に帰依し永く五戒をたもちうでそこととなるん我くま
世尊わの今日ゐ供養をうをせまる黙然として請ゐと

うをたまふ閻浮提中この長者優婆塞となり三宝を供養
しまやしくん我はで見ゐ長老世尊ゐ請ゐをうをせしめまるまを
見たてまつりまほ足を礼してちゐ
ゐひ耶舎と共に長者ゐ家におひし法座
をまうけ耶舎ゐ母妻と共よむのへ請ゐいれまおはしにつこのせ
たまへば礼拝し奉世尊又今釈のごとく法をとうせのへ耶
舎ゐ母も妻を又道跡を見ほひし我礼し奉世尊ら挙あま
てくふこのる永法にたのひまつ尊ゐ足仏ゐぬ今
ちゐ尽形壽佛ふ帰依し僧ふ帰依し我ゐく
五戒をたもち優婆夷となり仏ゐ清浄上

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

如(によ)来(らい)飯食を供(く)養(よう)し奉(たてまつ)りまはゆまへみそ者(しゃ)檀(だん)をほうけ
い訖くの香味を供養したてまつりて飲食をたてまつらせのへむ
又重(かさね)て香(こう)奠(でん)なくやうしなまりて一面にたの世ぞ又法をと
のせのひやごて帰らせのふそれ波婆羅疤斯城に長者乃
子五十人ありみ子一は耶舎童子なる里子二を富樓那といひ
ひ子三を無垢といひ子四を騫提梵摩提といひ子五を妙眉
といふ是れ北首なめ破僧事によれば五人なる耶舎なるお十人なる里みな耶舎
市仏世ないでのふをきて又耶舎乃市でとなめ出
家しおひーあとをゆ今世に無上世尊おりて法ぞ乃耶舎
童子北智恵辯才芸ふ法ぞ富樓那中にならびなきそ

の豪族すら世北中乃た北ーみをすてー形をみこなひ志を法も
里て仏のお子子となりのふ家等何事をこの毛の尺てこの家
よならんと芸にかくらひおり里てもふすむはくみた法のふ世ぞ乃市相好の世みことをおりほし
光明乃かやきのふをみなもりぬまば身をきたうすでーまた
やうにおぼえみなよ訖こび数年北意いでは法さ里て
市おすみ合掌しお里を礼北世長者北子みなすこ世よ
功法を推ぬれバ智恵聰達みてさとりやすー如来み乃機に叶
うどおひ里をとうせのひ色ぞ想行識は無常苦空無我な
つまやをとなせのふとききおひくお法眼浄をえまひとに五蘊ハ垂

常若空無我なめねがもくは世尊ちに出家をゆるしめく
とおよ世尊善来比丘と云たまへだ髪をげ私ぜの衣服
も袈裟となめて忽ちとなるのふ世尊又すみやく四諦をとうせ
たまふ五十余比丘等ときに煩悩つき阿羅漢を得たまふ世尊中に
はべんて五十の阿羅漢おりまします世尊もろく比丘みな所
作すでに辦ひ世尊なために無上乃福田となるをまくと
孫ふもろこのひとを教を誘くれ宿生を尽すべしきみぞのらも
王舎城おはひ悉く人民を度しなそんとおぼすと告たせのふ
もろくの比丘をのく仏勅をうをたまひ足我れ衣鉢を
をもおもひくにわの里おりてはひ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182. 85-Ko518m
ガラス使用